

普通会計決算の概要について

普通会計とは、公営事業会計以外の会計を統合して一つの会計としてまとめたものをいい、総務省の地方財政状況調査（決算統計）に係る会計区分であり、地方公共団体相互間の比較や時系列比較が行い易い会計区分である。

平成28年度の普通会計は、一般会計、中小企業従業員退職金等福祉共済事業特別会計、乙川中部土地区画整理事業特別会計、学校給食特別会計、黒石墓地事業特別会計の5会計から構成され、その決算額は地方財政状況調査として報告をしている。

普通会計の決算額は、各会計を単純に合算するのではなく、各会計間の重複部分（繰入金、繰出金）を控除した純計決算額である。この調査結果は、各種財政分析の資料として用いられるものであり、国の地方財政白書や地方財政の分析・検討等に広く利用されている。

本市の過去5年間の普通会計決算のあらましは次のとおりである。

普通会計収支等の状況 (単位：千円、%)

| 区 分 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 |
|----------------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 歳入総額 A | 36,668,653 | 38,950,434 | 45,127,861 | 39,777,531 | 39,226,985 |
| 歳出総額 B | 35,051,504 | 36,824,151 | 43,519,700 | 38,267,188 | 38,018,710 |
| 歳入歳出差引額 C=A-B | 1,617,149 | 2,126,283 | 1,608,161 | 1,510,343 | 1,208,275 |
| 翌年度へ繰り越すべき財源 D | 454,524 | 697,985 | 439,326 | 366,365 | 425,283 |
| 実質収支 E=C-D | 1,162,625 | 1,428,298 | 1,168,835 | 1,143,978 | 782,992 |
| 単年度収支 F | 216,120 | 265,673 | △259,463 | △24,857 | △360,986 |
| 積立金（財調） G | 544,820 | 541,182 | 947,566 | 16,021 | 10,499 |
| 繰上償還金 H | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 積立金取り崩し額 I | 218,902 | 646,072 | 39,716 | 0 | 0 |
| 実質単年度収支 J=F+G+H-I | 542,038 | 160,783 | 648,387 | △8,836 | △350,487 |
| 実質収支比率 | 4.9 | 5.9 | 4.8 | 4.6 | 3.2 |
| 積立金現在高（財調） | 3,370,128 | 3,265,238 | 4,173,088 | 4,189,109 | 4,199,608 |
| 土地開発基金 | 401,282 | 401,830 | 402,387 | 403,028 | 173,662 |
| 地方債現在高 | 25,943,282 | 23,484,875 | 21,497,432 | 19,334,520 | 16,981,227 |
| 債務負担行為額 | 2,751,448 | 7,729,771 | 2,856,118 | 2,235,198 | 2,290,280 |
| 土地開発公社借入残高 | 3,640,132 | 3,386,620 | 2,408,088 | 2,519,305 | 1,708,565 |

(注) 平成26年度の土地開発基金は、端数整理により△1千円調整している。

実質収支比率：実質収支額 ÷ 標準財政規模 × 100

平成28年度の普通会計決算は、歳入総額は 39,226,985千円で前年度比 1.4%減（前年度 11.9%減）となり、歳出総額は 38,018,710千円で前年度比 0.6%減（前年度 12.1%減）となった。

歳入歳出差引額は、1,208,275千円で、実質収支は782,992千円の黒字決算となり、単年度収支は△360,986千円、実質単年度収支は△350,487千円となった。また、実質収支比率は、前年度より1.4ポイント減の3.2%であった。